



「フェリシモ 地球村の基金」

JVC南スーダン事業を投票で応援してください！

今も深刻さを増す人道危機

日本では南スーダンのニュースがほとんどなくなりましたが、今も各地で戦闘は続き、避難民の数は増加の一途をたどっています。人口の約 1/3 が避難民になっていると言われ、「世界で最も急速に深刻化する難民危機」呼ばれるほどで、400 万人を超える人々が生活基盤を失い、大変厳しい状況にあります。

「食べていくのが精一杯。子どもの教育なんて・・・」

難民キャンプへ逃げてきた母親は、「みんな食料を手にするのが精一杯で、子どもを学校にやるおカネまでない」と言います。キャンプに隣接して小学校があり学費は無料なのですが、学校に通うためには、ノート、鉛筆などの学用品を購入しなくてはなりません。そういった必要最低限の学用品さえも準備できず、学校に通うことができない子どもたちが、JVCが活動するキャンプだけでもたくさんいます。



家財道具のないテントの中

子どもたちの未来のために

教育を受けることで職を得るチャンスが増えます。それは、若者が「仕事がないので兵士になる」というケースを防ぐことにもなります。平和な未来の為にも、JVCは子どもたちへの学用品の支援と、安定して学校に通えるようにするための家庭の収入向上を通じた支援を実施します。（詳細は裏面をご覧ください）

**皆様からの投票数が、フェリシモ地球村の基金からの助成額を決めるお力となります。
ぜひ投票で、応援してください！**

投票期限：2017年11月15日（水）まで



①投票ページで、「No.5：南スーダン、戦火を逃れて避難した子どもたちに学びの機会を！」を選択して、ページ下部の「確認」ボタンをクリック

②確認ページで、「送信」ボタンをクリックで投票完了です！

投票ページURL

<https://www.felissimo.co.jp/contents/ssl/enq001.cfm?enqno=24582019>



日本国際ボランティアセンター

「南スーダン、戦火を逃れて避難した子どもたちに学びの機会を！」

教育の大切さ

JVCがすでに教育支援を行っている難民キャンプの元自治会長ヤグーブさんの言葉です。
「学校に行けない子どもはストリートに出て、あとは兵士になるのが目に見えている。学校に通わせれば、中には将来大統領になる人物だって出てくるかも知れないじゃないか。子どもたちの才能の芽を摘むようなことは、してはいけない」
内戦状態から抜け出し、平和を取り戻すためにも、教育は大きな意味を持っています。

プロジェクト内容

学用品の支援だけでは、学用品がなくなればまた学校に通えなくなってしまいます。したがって、本プロジェクトでは、子どもたちが学校に継続して通えるように、家庭の収入向上のための支援も実施します。教育費がまかなえる収入確保があつてこそ、安定して学校に通い続けることができるようになります。

1. 学用品の支援

キャンプ内の家庭訪問を行い、学校に通っていない子どもを中心に、支援対象者 600 人(予定)を選び、学ぶために必要な文具(ノート、鉛筆、鉛筆削り、消しゴム)を支給します。
その後、支援を受けた子どもが学校に通っているかどうかを定期的に確認します。

2. 母親たちの収入向上につながる支援

故郷を離れて避難生活を送る女性たちの収入源は限られ、稼ぎもわずかなものです。キャンプ内の空き地で野菜を作ったり、調理した食べ物を市場で売って収入を増やしている女性たちもいますが、方法を知らなかったり道具がなくて実践できない人たちもいます。

そのため、まずは母親同士の話し合いを持ち、今どのように現金収入を得ているのかを情報交換します。そして、他にも良い収入向上のやり方がないか、そのためには何が必要かを話し合います。

例:「野菜作りは良い収入になるが、農具や種子がない」 → 農具・種子の支援

例:「揚げパンを作って市場で売りたいが鍋がない」 → 調理器具(鍋)の支援

知識を共有し、支援を実施した後は、どのくらいの収入を得ることができたかを定期的に確認します。

■実施場所: 南スーダン共和国、首都ジュバ市、マンガテン避難民キャンプ

■実施期間: 2018年1月～2018年10月

「フェリシモ地球村の基金」

株式会社フェリシモの実施によるもので、毎月一口100円の寄付による参加をいただき、集まった基金で、「貧困からの自立」「自然災害からの救済」「復興の応援」など、世界各地で進められている活動を応援しています。

世界の課題やその解決のための活動に関心が高まることで、ひとりひとりが世界に向けて貢献するきっかけができるよう、7つのプロジェクトへの投票を受け付けており、投票数が拠出金額の参考となります。



ストリートチルドレンだった子どもたち。JVCの活動で復学しました。